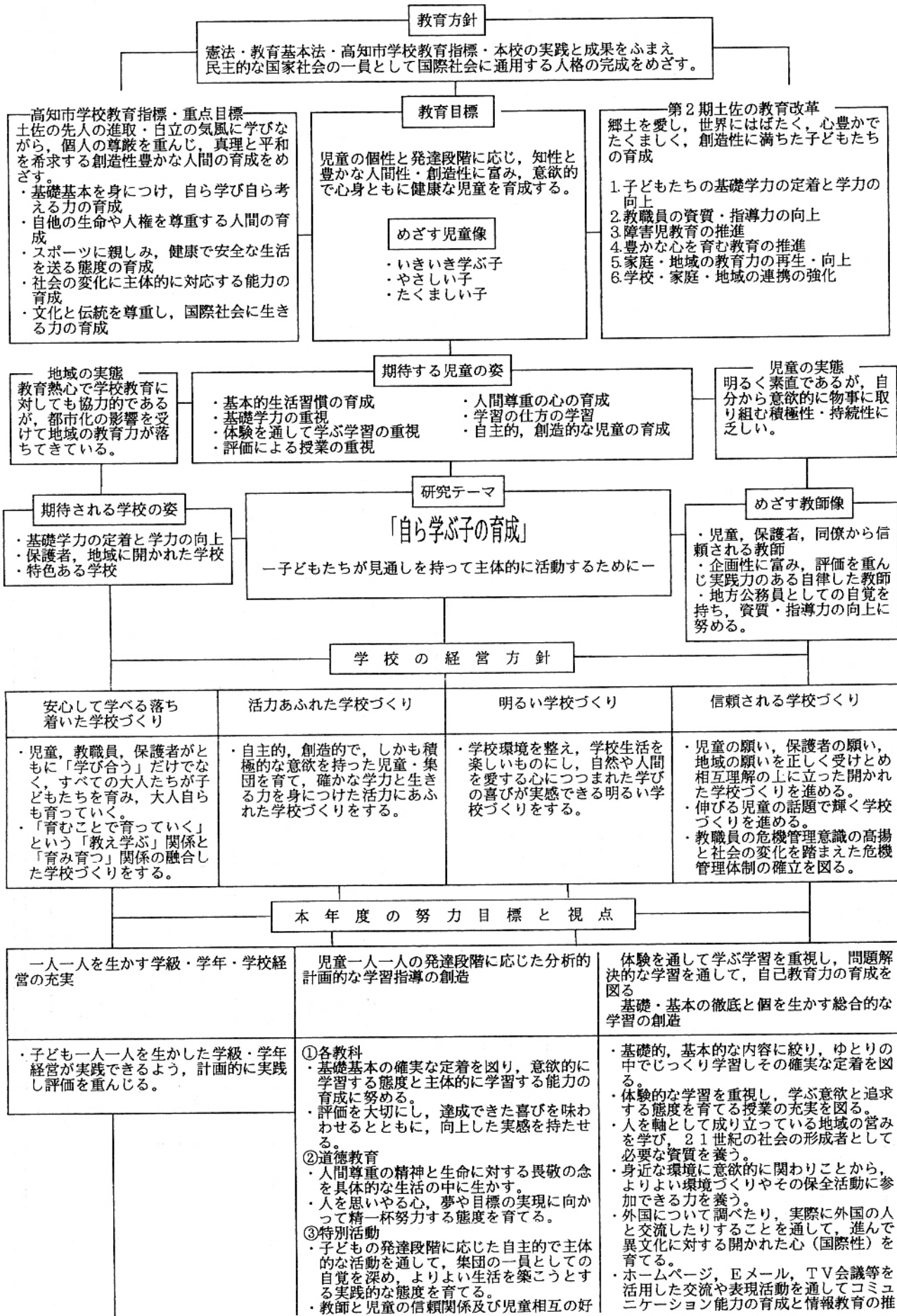


平成16年度 教育目標と基本構想



ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実に努める。

④生徒指導・進路指導

- ・学校生活を楽しく、有意義なものにしようとする意欲を高める。
- ・規律正しい生活をめざし、互いにささえ合い高め合う子どもの育成に努める。
- ・基本的な生活習慣を身につけた子どもの育成に努める。
- ・児童が自らを生きし自己実現できるよう援助する。

⑤人権教育・特別支援教育

- ・心と命の教育を充実し、平和と人権を大切にする子どもの育成をめざす。
- ・身のまわりの不合理に気づき、それを許さない子どもの育成に努める。
- ・特別な教育的ニーズのある子どもについて正しい認識をし、共に生きる仲間としての意識を育てる。

⑥体育・保健安全教育

- ・健康、安全に関する理解を深め、命を大切に心身の調和のとれた発達をめざす。
- ・自ら進んでスポーツに親しむ態度や能力を身につけ、体格、視力、筋パワー及び瞬発力、全身持久力の体力の向上、食教育の充実に努める。

⑦情報教育

- ・コンピュータの特性を生かし、一人一人に応じた学習指導に効果的に活用するとともに、情報活用能力の育成に努める。

進を図る。
・視聴覚教材や教具、学習具の効果的な活用を図る。

学 年 目 標			
学級学年	いきいき学ぶ子	やさしい子	たくましい子
ひまわり	考えはたらく子	なかよく助け合う子	力いっぱいがんばる子
1 年	楽しく活動する子	なかよく遊ぶ子	力いっぱいがんばる子
2 年	進んで活動する子	なかよく助け合う子	力いっぱいがんばる子
3 年	自分から進んで活動する子	なかまを大切にする子	力いっぱいがんばりぬく子
4 年	自分の考えを持って活動する子	友だちを大切に、ともにのびる子	ねばり強く取り組む子
5 年	自ら課題を見つけ、活動する子	友だちのよさを認め、なかまを大切に する子	自ら判断し、行動できる子
6 年	自ら課題を見つけ、解決する子	友だちのよさを認め、なかまを大切に し、ともにのびる子	自ら判断し、積極的に行動できる子

校内研修	各教科・道徳・総合的な学習の時間	特別活動
〈研究主題〉 「自ら学ぶ子の育成」 一子どもたちが見通しを持って主体的に活動するために 〈研究仮説〉 子ども自らが学習課題を捉える支援を工夫したり、学習課題設定後のゴールを見すえた学習活動を組織することにより、子どもたちは、見通しを持った主体的な学習を継続することができよう。 〈研究内容〉 1.問題解決学習の重視（生活科・社会科を中心に） 2.学習課題の在り方についての研究 3.基礎、基本の徹底 4.評価の研究 5.情報活用能力の育成 6.「かがやきタイム」の充実（「もの」「ひと」「こと」との関わりを通して） 7.学年、学級経営の充実	1.教材の厳選 2.基礎学力の定着 3.人間尊重の精神と生命に対する畏敬 4.道徳の時間の工夫 5.問題解決学習の重視 6.学力向上のための基礎調査（CRT）の結果を踏まえた個々の子どもへの指導 7.読書習慣の育成 8.地域人材の活用 9.教科との関連を図った総合的な学習の時間 10.少人数指導、課題別・習熟度別による学習指導の工夫 11.T.T方式による指導の工夫 12.家庭、地域との連携 13.情報活用能力の育成	1.学級活動の充実 2.児童会活動の活性化 3.集会活動の精選と充実 4.委員会活動の活性化 5.クラブ活動の充実 6.学校行事の精選と拡充 7.異学年集団でのふれあい 8.体験学習の充実 9.ボランティア活動の推進
生徒指導	保健・安全指導	人権教育・特別支援教育
1.あいさつ運動の励行 2.共通理解のための情報交換 3.教育相談体制の充実 4.子どもの支援体制の研究 5.家庭、地域との連携の推進 6.他領域との関連した指導の確立 7.校内外の生活のきまりの継続的指導 8.授業における生徒指導の充実 9.指導体制の確立	1.基本的な保健衛生の習慣化 2.健康保持増進 3.家庭への啓発 4.性教育の実践 5.交通安全教室 6.避難訓練の強化 7.安全点検の実施 8.環境整備と清掃指導 9.給食指導の充実	1.人権、特別支援教育の実践と研究 2.授業研究の充実 3.保護者への啓発 4.教職員の意識の向上、改革のための研修の充実 5.障害者理解教育の推進 6.人権教育の視点に立った生徒指導、学級指導の充実 7.平和教育の推進

I 研究主題

「自ら学ぶ子の育成」

ー子どもたちが見通しを持って主体的に活動するためにー

II. 研究主題設定にあたって

1. 「自ら学ぶ子」について

- ・自分の問題意識がはっきりしている。
- ・問題解決について見通しを持つ。
- ・様々な方策で問題解決のために行動する。
- ・自分の行動を振り返る。

このような力が育った子どもたちは、自分で考え、学び、行動することができる。また、学び方やものの見方、考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組むこともできる。さらには、自分自身の活動を振り返ることにより、自己を見つめ、ひいては、自分自身の生き方についても考えることができるようになるのではないだろうか。

これは最終的に目指す子どもの姿であり、発達段階において、当然、質的な違いがある。すなわち、低学年においては、意欲的に活動することの持続性を大切にしていける。その意欲的な活動の中から、次第に、目的意識のはっきりした意味のある活動を組織していく。それを繰り返していくうちに、高学年になると、自ら課題意識を持ち、課題解決のための方法論や実践力を身につけていくことができる。また、自分の行動や活動を振り返り評価してもらったり、自ら評価していくことで、新たな問題を見つけることができたり、学習活動に深まりや広がりが出てきたりするのではないかと考える。

このような学習活動が繰り返されるようになると、子どもたちは「自ら学び続ける」ことができるようになるのではないだろうか。

2. 「自ら学ぶ子の育成」について

自ら学ぶ子を育成するためには、子どもたち一人ひとりが自らの経験や思考力、判断力などを働かせながら、進んで事象や対象に関わり、自ら問題を見つけ、主体的に思考し行動する態度を育成することが必要である。そのためには、問題解決的な学習活動の場を設定することや、問題解決的な学習の流れの中に位置づけられた体験的な学習を取り入れること、また、意欲的に関わりやすく、地域の一員という自覚を高めることのできる地域教材を取り入れること、さらに情報活用能力の育成を図ることが大切であると考えます。

本校では、以前より生活科、社会科、情報教育を中心にして研究を進め、1999年度には「生活科・社会科を窓口とした問題解決能力の育成」という視点で生活科・社会科の一定の流れを作り上げた。

という基本的な問題解決学習の流れの定着である。

それを土台にして、2000年度、2001年度は、「体験や他者との関わりを通して児童の自己実現を図る」という視点で子どもたちの学習活動を支援してきた。その結果、体験活動を取り入れたときの子どもたちの意欲的な学習活動、また、多様な表現を通して他者との関わりを持つことによって、子どもたちの学びはより豊かになってきた。

以上のような経緯のもと、今の本校の子どもたちの実態を見たときに、教師が指示をした学習活動については十分な対応ができるようになってきていると思われる。しかし、主体的に思考し行動する態度という「自ら学ぶ子」の根幹に関わる部分については、まだまだ不十分のように思われる。

それがどこに起因しているかを考えたときに、一つの要因として、子どもたちがある程度の見通しを持つことができないうちに学習活動が進んでいっているのではないか、ということが浮かび上がり、見通しを持つことができていないために主体的に思考したり行動することができていないように思われた。

子どもたちが学習活動の見通しを持つことができれば、自ら課題解決のための方法を見いだすことができるだろうし、課題解決に向けて行動することができる。そのためには、学習を組織する教師が単元・教材等を通して子どもにどのような力をつけたいのかを明確にし、子どもが見通しを持つことのできる学習展開を構築することが、より大切になってくる。教師の側が学習を組織しながらも、主体的に子どもが活動できる授業を系統的に構成していくのである。

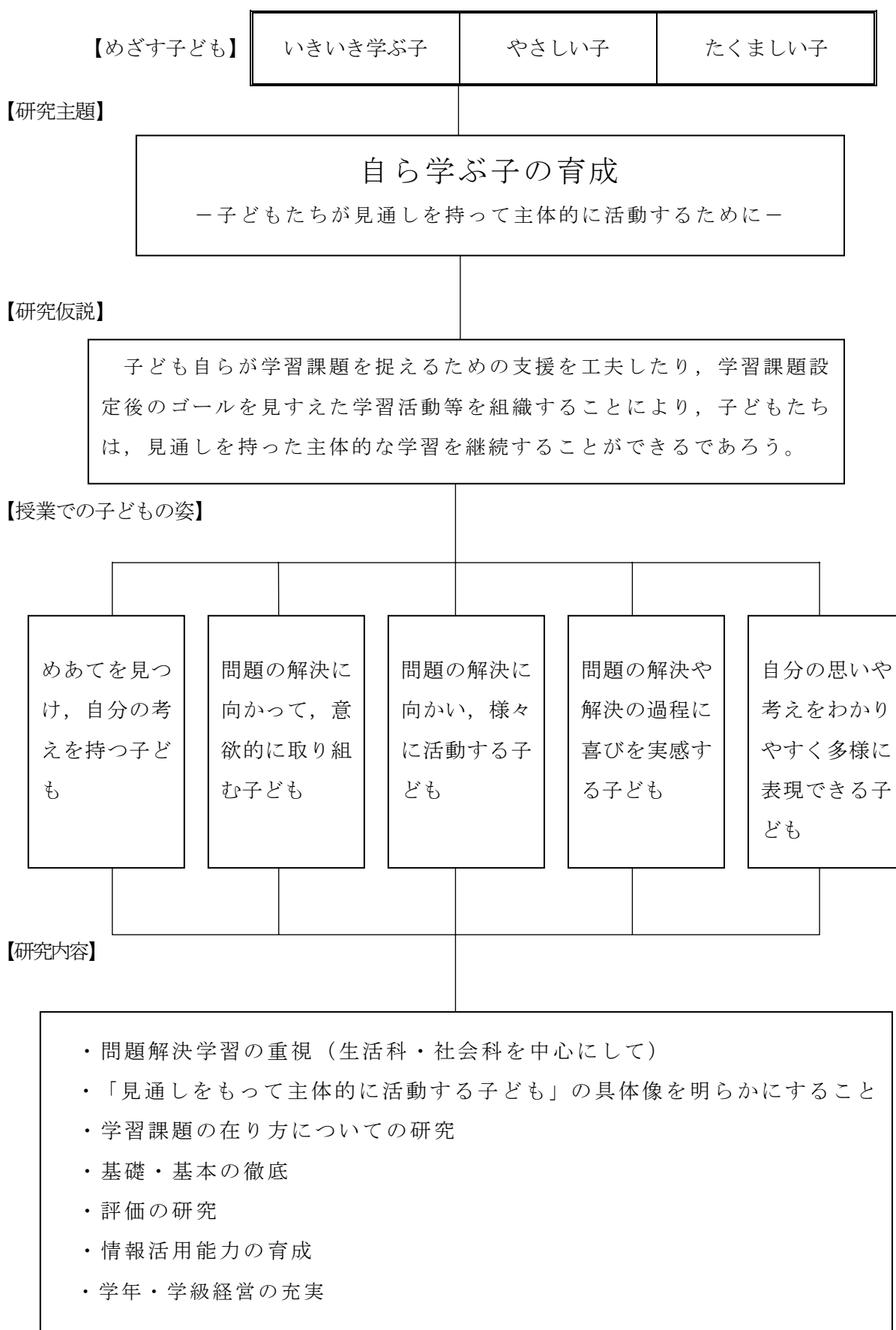
この見通しを持って意欲的に、また、主体的に学習活動に取り組む姿が自ら学ぶ姿であり、教師の指導・支援のもと、意味のある学習活動を繰り返すことにより「生きる力」が育まれていくと考える。

本校では、自ら学ぶ子を各教科、道徳、かがやきタイム（総合的な学習の時間）、特別活動、情報教育等を通して、系統的・継続的に育てていこうと考えている。

3. 研究仮説

子ども自らが学習課題を捉えるための支援を工夫したり、学習課題設定後のゴールを見すえた学習活動等を組織することにより、子どもたちは、見通しを持った主体的な学習を継続することができるであろう。

4. 研究構造図



〈一年次の研究より〉

〈生活科〉

〈社会科〉

〈二年次の研究より〉

〈生活科〉

一方、子どもたちの主体的な学習を支援するために、教師も見通しをもって授業づくりをしなければならない。教師が見通しをもつということは、子どもの実態（思いや願い）を見取り、「どんな力をつけたいのか」を明確にもちながら、子どもの意識の流れを予想して活動計画を立てたり、手だてや支援を工夫することである。次に、授業づく

りのポイントをあげる。

- 子供の思いや願いに寄り添った子どもにとって目指すべき課題（学びのゴールがあり、そのゴールでの自分の姿を子ども自身が具体的にイメージできる。
- 子どもが意欲を持続しながら問題可決に向かうことができる。
- 子どもが問題解決に向かっている過程において、自分自身の成長や学習の成果が分かり、次の活動の課題をつかむことができる。
- 子どもが「楽しい」と実感できる。
- 子どもが自分の気づきや感動をお互いに交流し合う場があり、友だちのよさを感じることができる。

〈社会科〉

（１）「見通しのある授業」について

教師の側からの見通しとは、子どもたちの学習活動に対する予想と考えてよい。子どもたちが調べた事象から、また、教師側から提示された事象から、子どもたちがどのような学習課題を見いだすのか。学習課題を解決していくために、子どもたちはどのような学習活動を展開していくのか。教師の側は、その予想に添った授業を構築していく必要がある。

子どもの側からの見通しとは、学習方法や学習内容に対する予想と考えてよい。すなわち、学習課題を解決していくために何を利用し、どのようなことを理解すればいいのか、という方向性を子ども自身が見出だすことと考える。

この教師側の見通しと子どもの側の見通しに差があるほど、授業はぎくしゃくとしたものとなり、子どもたちの主体的な学習活動は望むことができない。そこで、子ども、教師双方が見通しのある授業をしていくために、学習課題の位置づけと情報活用能力の関連を考えた。

３・４年生では、学習課題を意識させたり知ることに重点を置き、教師の意図に合った情報の収集をさせていく。５年生では、子どもたちが調べた事象の中から学習課題を発見させるようにしていく。そして、学習課題発見に必要な情報の収集、学習課題解決に必要な情報の選択、さらに発信能力に重点を置く。６年生では、調べた事象の中から学習課題を生成、情報の収集・選択・生成、そして、相手をより意識した情報発信能力を身につけさせていく。

以上のように、段階を追って学習課題に対する意識と情報活用能力を身につけさせることにより、子どもたちの中に「見通しをもつ力」が育っていくと考える。

〈見通しのある授業を明らかにするために〉

見通しのある授業をより具体的にするために、授業記録の取り方を工夫した。２年生の生活科の公開授業を例にしてみた。

<学習課題と見通しの関連を明らかにするために>

2 年 組		単元名) 秋めく下知へたんけんだ	平成15年10月29日2校時 教諭
		子どもの姿	情報活用能力
つかむ	思いや願い	○これまでの活動を振り返る。 ・丸池公園へ行って秋探しをしたね。写真も撮ってきたね。 ・コンピュータで秋祭りの招待状に日時を入れたよ。今日は招待状作りの続きをしよう。 ○今日の活動のめあてをたしかめる。	
	課題	友だちと力を合わせて工夫して「秋のお知らせコーナー」を作ろう。	
活動する	活動内容・活動方法・人との関わり等	○使いたい写真を友だちと相談しながら選んで入れる。 ・この木の写真が秋らしくていいね。 ・コンピュータのこのやり方が難しいから先生に教えてもらおう。 ○文章を工夫して、見る人がよくわかるような「秋のお知らせコーナー」をつくる。 ○友だちが作りかけている招待状を見てよいところを見つける。 ・〇〇さんのは文がくわしくて上手だね。 ・〇〇さんのは気持ちを書いているからいい。	自分たちの文章にあう写真を選んでいる。 (情報選択能力) 相手を意識してわかりやすい招待状をつくる。 (情報生成能力)
振り返る	気づき・新たな課題	○楽しかったことや気づいたことを「振り返りカード」にかく。 ・友だちにほめてもらってうれしい。 ・むずかしいところもあったけど、できてきたらうれしい。 ・はやく招待状を仕上げてもっていきたい。	

4年生の社会科の公開授業を例にしてみた。

<学習課題と見通しの関連を明らかにするために>

4 年 組		(単元名) わたしたちの県とまちづくり	平成15年11月26日2限		教諭
		子どもの姿	情報活用能力	資料等	
つかむ	一人ひとりの 気づき問題意識	○まとめから気づいたことを発表 ・農業がない ・北の方が特産物が少ない ・高知市周辺に集中している 不思議に思わない？と言って出した	ノートを見て 発表している	ノート	
	課題	地域によって特産品がいろいろ違うのはどうしてだろう。			
予想・見通し	学習方法・学習内容・人との関わり等	・東部は海が多い ・おいしいものを自分が作って販売 △昔からテレビのコマーシャルでやっていたのかな ・高知市は畑が多い △人が作ったと思う ・山は海から遠い ―― 水が少ない ・気温が変わるので作るものも変わる	○課題と違う		
考える・調べる		資料を考えている ―― パンフレット，地図，高知のくらし，写真，説明文，グラフ，表 △いろいろ見ているが資料から探すことができるだろうか？ △個人→班になっても「わからんー」とつぶやき △高知のくらしを見ているが，資料を見つけていない	パンフレット		
まとめる	結論・新たな気づきや疑問等	㊦地果樹園，田畑が多い高知市の周辺 ㊦地夏25，冬15 育つものがある→ワークシートに書けている人1人 他の班の発表が聞けていない 高知のくらし野菜が多いなぜかこれから勉強していきたい △4人の発表でなく代表1人の発表になっている	パンフレット 地図 高知のくらし		
深める・広げる		△地形，自然を調べないとわからない という意欲が感じられない			

この表のように、問題解決学習の流れに沿って、子どもの具体的な学習活動や参観者の感じたことを記入していく。子どもの具体的な姿をもとに検証していくことによって、教師の側の見通しと子どもの側の見通しの差が縮まってくるのではないかと考えた。

【2004年度の研究より】

（１）研究の重点目標

2002年度、2003年度の研究により、「子どもたちが見通しを持って主体的に活動すること」について、ある程度、具体的な子どもの姿を捉えることはできてきたが、まだ十分ではない。そこで、今年度は以下のことを重点目標として実践的研究に取り組んでいる。

「見通しをもって主体的に活動する子どもの姿」を明らかにし、それらを日々の授業の目指す子ども像として捉え、支援や手だてを工夫しながら実践的に取り組む。

（２）具体的な研究例

まず、「見通しをもって主体的に活動する子どもの姿」を明らかにするために、ワークショップ形式での研修をした。講師として村川雅弘先生（鳴門教育大学教授）を招いて研修を行った。



（３）「子どもたちが見通しを持って主体的に活動すること」についての考え方

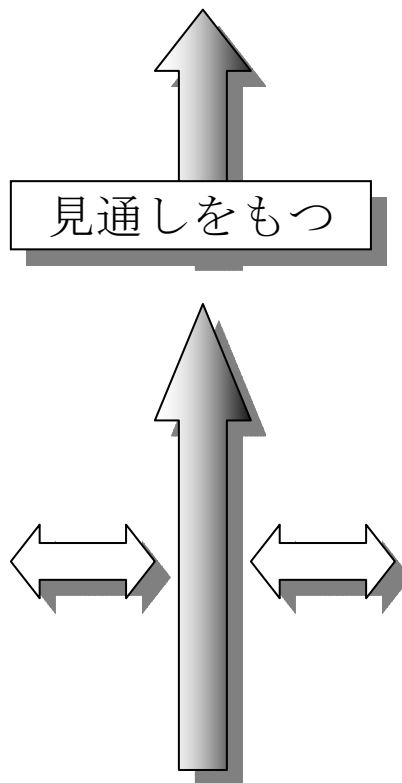
この研修での成果をもとにして、「子どもたちが見通しを持って主体的に活動すること」について、以下の４つの視点から考えをまとめることができた。

- ①子どもたちが「見通しをもつ」ための基盤となるもの
- ②生活科、社会科において「子どもたちが見通しを持って主体的に活動する」ために、育てたい力
- ③生活科、社会科において「子どもたちが見通しを持って主体的に活動する」ための支援や手だて、評価
- ④生活科、社会科において「子どもたちが見通しを持って主体的に活動する」具体的な姿

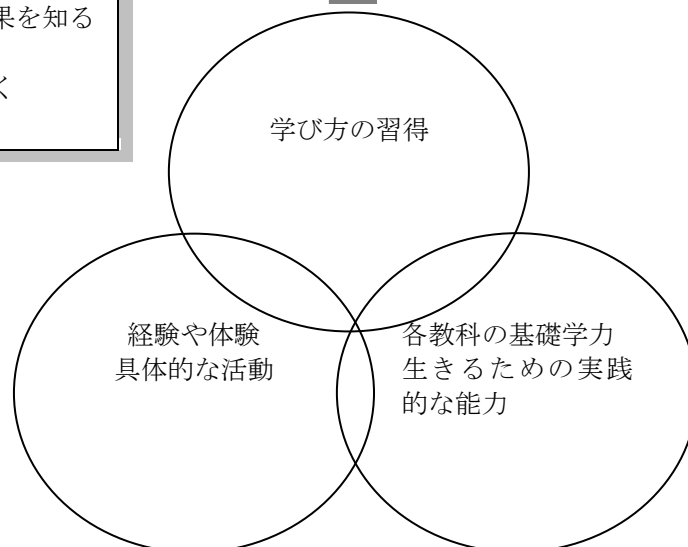
自ら学ぶ子

見通しをもって主体的に活動するために

生活科・社会科において	
見通しをもつために	
手立て、支援と評価	
つかむ	・ 個人体験の想起 ・ 共通体験の設定 ・ インパクトのある資料
活動する 考える	・ 個にあった声かけ 励まし ・ 他者とのかかわり ・ 身近な事象とのかかわり
振り返る 広げる	・ 自己評価 ・ 他者からの評価 ・ 学習を振り返る ・ 自分自身を振り返る ⇕ ・ 自分の学習の成果を知る ・ 達成感を味わう ・ 次の課題に気づく ・ 社会参加



生活科・社会科において	
見通しをもつために 育てたい力	
1 ・ 2 年	振り返る力
3 ・ 4 年	比較する力
5 ・ 6 年	仮説・検証する力



意 欲

(学ぶ意欲、活動する意欲、身近な事象にかかわる意欲、生きる意欲)

①子どもたちが「見通しをもつ」ための基盤となるものについて

子どもたちが「見通しをもつ」ということは、様々な場面で考えられる。各教科、「総合的な学習の時間」の学習や活動、実際の生活など、それぞれの場面において、子どもたちは「見通しを持つ」ことによって、主体的に学び、活動し、行動できるはずである。

そして、個々がその場の状況に応じて「見通しを持つ」能力は、各教科や総合の時間、その他の活動を含む教育活動全体で、そして、個々の実際の生活において培われるものであると考える。

本校の研究テーマ「子どもたちが見通しをもって主体的に活動する」に迫っていくために、このような「見通しをもつ」という能力の基盤となるものを明らかにする必要があると考えて、以下のよう

にまとめた。

〈見通しをもつ〉という能力の基盤となるもの（見通しの構造図参照）

○意欲（学ぶ意欲，活動する意欲，身近な事象とかかわる意欲，生きる意欲など）
○経験や体験，具体的な活動
○各教科の基礎学力，生きるための実践的な能力（表現力，問題解決能力，情報活用能力など）
○学び方の習得

そして、本校の研究（「子どもたちが見通しを持って主体的に活動するために」）を実践的なものにするために、生活科や社会科において、『どんな力を、どのように（どんな手だてや支援で）育てていけばいいのか』ということについて、明らかにしなければならない。以下の②，③，④はそれらについての本校の考え方である。

②「見通しを持つ」ために生活科，社会科で育てたい力，見通す対象について発達段階をふまえ，系統性を考えてまとめたものである。

教科	生活科	社会科	社会科
学年	1・2年	3・4年	5・6年
育てたい力	〈振り返る力〉 （これまでの経験や体験，活動，自分自身を振り返ること で今後の活動をイメージする）	〈比較する力〉 （自分の住んでいる地域と他 地域と比較して見たり，考 えたりして，学習方法を予測 する）	〈仮説，検証する力〉 （理由づけて課題に対する予 想をたて，調べ方や調べる内 容を考えて確かめる）
見通す対象方法	〈自分自身〉 ○個々の見通しには，必ず， 身近な事象とかかわる自分 自身の姿がある）	〈具体から広い具体へ〉 ○身の回りから市・県へ広げ る（例）高知市とアメリカの ゴミ処理のちがい	〈広い具体〉 ○日本，世界の食糧・工業生産 ○情報と環境，暮らし ○歴史 ○社会のしくみ

①で述べたように、子どもたちが「見通しを持つ」能力は、各教科や総合的な学習の時間、その他の活動を含む教育活動全体で、そして、実際の生活の場において培われるものであり、子どもたちが主体的に生きていくために重要な能力の一つである。

本年度は、その「見通しを持つ」能力を育成するために、生活科・社会科ではどのような具体的な力を育てていくべきかを考え、1・2年生は生活科、3年生～6年生は社会科を中心的な研究の場として捉え、実践的な研究を進めているところである。

[生活科]

生活科で子どもたちが個々の活動について「見通しを持つ」ためには、個々が自分なりの課題を明確につかんでいること、そして、その課題に向かう自分の姿をイメージできることが大切である。

子どもたちが課題に向かう自分の姿をイメージする場合、単元の導入の段階では、個々はこれまでの経験や体験の様子を思い起こしてそれをもとにして自分の活動への「見通し」を持つ。活動の途中の段階では、自分の活動を振り返ることで次の活動への「見通し」を持つことができる。

このように、子どもたちが生活科において「見通しを持つ」ためには、個々が過去の経験や体験、自分の活動を振り返り、そこでの知識や認識を再認識したり、学習の成果を確認することが重要である。そこで、生活科では、〈振り返る力〉を「見通しを持つ」ために育てたい重要な力であると考ええる。

[社会科]

社会科で子どもたちが学習について「見通しを持つ」ということは、個々が学習方法や学習内容に対する予想をもつことである。

子どもたちが見通しを持って主体的に活動するために、3・4年生ではは〈比較する力〉（比較して社会事象を見る、考える力）を育てたい。3・4年生の社会科学習は、「地域社会の社会事象の特色や相互の関連等について考える力を育てる」ことが目標の一つである。3年生では子どもたちが自分が住んでいる地域と他地域を比較すること、4年生では特色ある地域同士を比較することを大切にしたい。社会事象を比較してみたり、考えたりすることで、それぞれの地域の特色を知り、そこに住んでいる人々の願いに触れることもできると考える。

5、6年生では、仮説を立て、それを検証できる力であると考ええる。単元の導入の段階では、個々が課題を身近に感じ、今までの経験や既習のことから課題に対する予想、つまり、仮説を立てることができると考える。単元の途中の段階では、学習課題を解決していくために何を利用し、どのようなことを理解すればいいのか、という方向性を子ども自身が見いだすことと考える。

③生活科、社会科において「子どもたちが見通しを持って主体的に活動する」ための支援や手だて、評価について

生活科、社会科ともに、問題解決的な学習の流れに沿って、支援や手だて、評価を考えた。（見通しの構造図参照）

④生活科、社会科において「子どもたちが見通しを持って主体的に活動する」具体的な姿について

本年度、研究テーマにせまっていくために、教員それぞれが「子どもが見通しを持つ」ことについて、以下のように、できるだけ具体的な姿として捉えることを大切にしてきた。

学年 {単元}	「見通しを持つ」子どもの具体的な姿，子どもの意識		
ひまわり 「からすのパンやさん」	・きつねパンを買いに行つたけど，なかったので自分たちで作りたい。	・パネルシアターをもらって楽しかった。今度は，ぼくたちがパネルシアターを他の友だちに見せてあげたい。	・オペレッタの練習をしたけどうまくいかなかった。だからもう一回練習したい。
1年・生活科 「仕事名人になろう」	・ぼくは虫が好きだから丸池公園で虫をとりたい。虫取り網と虫かごを持っていこう。	・前に丸池公園に行く道は車がいっぱい通って危ないからきちんと並んで歩こう。	・バッタは草の中に隠れているよ。草がいっぱい生えているところを探してみよう。
2年・生活科 「ぼうけん，はっけん，町たんけん」	・自分はパンが好きだからパン屋でおいしいパンの作り方を調べて家でも作ってみたい。	・町たんけん郵便局へ行ったらどろぼうが来たらどうするのか聞いてきたい。	・今日の練習では，自分の言うところが上手には言えなかったから，ちゃんと家で練習して大きな声で質問できるようにしておこう。
3年・社会科 「見つめようわたしたちのまち－高知市のようす－」	・校区では南，中央，北コースとそれぞれに町の様子が違っていた。高知市も場所によって様子が違っているだろう。探検に行つて見てこよう。	・校区の中央は，住宅やお店がたくさん集まっていた。高知市の中心も住宅やお店が集まっているだろう。	・校区の南や北は，港や工場，大きな車屋さんや卸団地などがあつた。地図で見ると高知市の周りは田や畑がある所や山や海の近くなどがある。そんなと所の様子を調べてみたい。インターネットで調べてみよう。
4年・社会科	・ぼくたち，わたしたちが出しているゴミはどこにいつているのだろう。ゴミステーションへ行つて調べてみよう	・パッカー車に乗って集められたゴミはどこで，どのようにして処理されているのだろう。	・あれ。この町は缶も生ゴミも一つの袋に入れて出すんだ。今まで勉強してきた高知市のゴミ処理ではこんなやり方は禁止されているのにどうしてこんなやり方するのか
5年・社会科 「日本の水産業」	・お魚マップ作りを通して，なぜ三陸沖に魚が多く住んでいるのかを過去に学習したことから予想している。	・山から流れる栄養分の多い水が海に流れ込み，魚の餌となり，魚が多く集まると予想し，地図帳や資料集で自分の予想を検証している。	・山と海のつながりがわかり「森は海の恋人」という題で新聞にまとめている。
6年・社会科 「戦争から平和への歩みを見直そう」	・戦争について調べたいことがきちんと疑問から見いだされ，その疑問についての予想を理由をつけて考えることができる。	・調べるにあたり，「おばあちゃんに聞けばわかるかも」「図書室に戦争に関する本があつた」等，どういう方法で調べると，疑問が解決できるのか，分かっている。	・まとめるときに，自分が調べたことについて，必要なもの，そうでないものが，仕上がったことを浮かべながら考えることができる。

子どもたちが自分の活動や学習について「見通しを持つ」姿を、以上のように指導者が具体的にイメージすることで、子どもたちに対する支援や手立て、評価などが明確になってくる。そして、子どもたちの学びを価値のある確かなものにすることができると考える。

なお、子どもたちが「見通しをもつ」ことについては、「各学年の取り組み」の項において、それぞれの学年の発達段階に応じた子どもの姿、支援や手立てなどについて述べられている。

5. 具体的な研究より

■基礎・基本の徹底

本校が目指している「生きる力」を持った子どもを育てるためには、子ども自らが問題を見つけ、解決していく力（問題解決能力）を身につけなければならない。そのためには、基礎・基本の徹底ということが重要になってくる。

また、先述のように、本校の研究テーマである「子どもたちが見通しを持って主体的に活動するために」も各教科の基礎学力の習得は重要である。

そこで、各学年における学習内容の基礎・基本、それに加えて、低学年においては学習態度の基礎・基本、低・中学年では学習方法の基礎・基本も定着させるように、授業改善に努めている。

学習内容の基礎・基本については、4月に実施したC R Tの結果を各学年で分析することにより、以後の指導に役立てるようにしてきた。また、毎日午後の帯タイムとして10分間の「習熟タイム」を設定し、教科の土台となる「読む」「書く」「計算する」能力の習熟に努めた。

さらに、平成14年度から始めた朝自習時間での全校一斉読書を継続していくことで、読むことへの抵抗感を軽減したり、落ち着いた態度で1日を始めることができるようにしている。

■評価の研究

よりよい学びを続けていくためには自らの学習活動を振り返ることが必要である。そのための手段の一つが評価活動であると考える。

これまで本校では、学習活動を再認識させるために振り返りカード等を利用したり、学習意欲を高めたり持続したりするために子ども同士による相互評価を取り入れたり、さらに、ブロック共通の評価表を使って授業改善に生かすために子どもの自己評価、子どもによる授業評価を行ってきた。しかし、これだけでは学習活動の中での子どもの変容まではわからない。そこでポートフォリオを利用して子どもの学習活動の足跡を継続的に残すことにより子どもの変容を見取ったり、子ども自身が自分を振り返ることができるようにしてきた。

また、教師が子どもの変容を評価するために、指導案作成の際に、評価の観点と評価項目を明記するようにした。さらに、指導計画の中に評価項目を盛り込むことによ

り、単元を通して子どものどのような変容を目指したか、ということがわかるような工夫もできだしてきた。生活科では、個々の実態を見取るために、教師が子どもたちのアンケートや振り返りカードをもとに個人表を作成して、それらを活動計画や個々への支援や手だてに生かすようにしている。

これまでの研究をもとに絶対評価への取り組みを進め、さらに、子どもの自己肯定感・自己有用感が高まり、学習意欲が次につながるような、また、外部評価も視野に入れた評価活動の研究をさらに進めていきたい。

■情報活用能力の育成

本校の子どもたちの情報活用能力は、各教科・領域の中で育まれてきた。具体的には、生活科、社会科を中心教科とし、そこに情報活用能力（本校では、情報収集能力、情報選択能力、情報生成能力、情報発信能力の4つを情報活用能力ととらえている）をからめての授業実践を展開してきた。その中で本校は、特にコンピュータ等の情報機器の活用を

- ・記録の道具
- ・情報収集の道具
- ・表現の道具
- ・交流の道具

として、授業の中に効果的に活用を図ることを中心にして研究を進めてきた。次にあげるような実践を通して「情報収集能力」「情報選択能力」「情報生成能力」「情報発信能力」

等が児童に身に付くことをねらった。



<実践事例>

本校では、コンピュータリテラシー向上のための特別な時間枠は設けていない。各教科・領域・総合的な学習の時間の中で、コンピュータを活用していくことにより児童のコンピュータリテラシーの向上および、情報活用能力の育成を目指している。また、情報活用能力については、コンピュータだけに頼ることなく、いろいろな情報媒体を考え、各学年の発達段階に応じた指導を目指している。

学習活動を通して

1年生から6年生まで、生活科・社会科の授業において情報教育の位置づけを明確にとらえるとともに、情報活用能力との関連を絶えず意識しながら授業実践を行ってきた。また、社会科・生活科だけでなく、国語科や総合学習の時間等様々な時間においても同様に取り組んできた。そして、本校における情報活用能力の意味づけは、一般的な機器利用がらみによるものだけでなく、授業活動のあらゆる場面において、その成果が上がるものと考え、下記のような年間を通した実践に取り組んでいる。

1 年生（2004 年度 1 学期，2003 年度 2・3 学期の実践から抜粋）

			時	指導計画	情報収集能力	情報選択能力	情報生成能力	情報発信能力
1 学期	はる	いっせん(いっせいはる)とあそぼう	1	学校で草花や虫を探そう。	校庭を歩き，草花や虫の様子を観察する。			
			1	学校の近くの公園で遊ぼう。どこの公園でどんな遊びをしようかな。	校区内の公園を知る。	校区内の公園の中から，行きたい公園を選ぶ。		
			2	青柳公園で自然と遊ぼう。		公園の中の春の自然の様子を見つける。		
			2	見つけたことをカードに表そう。			見つけた自然の変化を見つけたよカードに絵や文で表す。	発見した自然の様子・変化を発表する。
		たねまきをして草花を育てよう	1	どんな花をうえたらいいかな。	今までの経験や教科書を見ながら，時期にあった花を考える。			
			1	たねをまいて大切に育てよう。	種のまき方を知り，種をまく。			
			1	きれいに花が咲くように水をやろう。思ったことをカードにかこう。			見つけたことや思ったことをカードに絵や文で表す。	見つけたことを発表する。
		なつ	1	暑くなってきたね。校庭や公園はどんなに変わったかな。	校庭や公園の様子，教科書を見ながら自然の変化を考える。			
			2	丸池公園で夏を探して遊ぼう。		公園の中の春と違う自然の様子を見つける。		
			1	見つけたことを表そう。			公園で見つけた夏の様子を見つけたよカードに絵や文で表す。	
		やさいやはなをそだてよう	3	花の世話をしよう。	あさがおの世話を考えたり，調べたりする。		成長の様子を観察して，絵や文で表す。	
			2	畑に野菜を植えて育てたいな。		みんなで育てたい野菜を考える。	したこと見つけたことを見つけたよカードに絵や文で表す。	
			1	花をとって残しておきたいね。			こすりぞめをし，気がついたことを文に表す。	
2 学期	あき	いっせん(いっせいはる)とあそぼう	1	学校の秋を探そう	校庭や運動場で木々や草花，虫の様子を観察する。	春，夏と違う秋独特の自然の様子や変化に気づく。	見つけた自然の変化を見つけたよカードに絵や文でまとめる。	発見した自然の様子，変化を発表する。
			1	公園の虫や木，草花はどんなになっているかな。	家の近くの公園の様子を発表しあったり，教科書を見ながら自然の変化を考える。	公園の中の春，夏と違う自然の様子を見つける。		
			2	丸池公園で秋を探して遊ぼう。	公園の中にある秋独特の自然物を集める。	秋の自然物の中で工夫して遊びたい物を選ぶ。		自分のした遊びを友だちに紹介する。
			1	公園で見つけた秋を表そう。			公園で見つけた秋の様子や自分の遊びを「見つけたよカード」に絵や文でまとめる。	
			7	木の実，葉や草花で遊ぼう。	今までの経験や教科書，本などから自然物を使った様々な遊び方を知る。	集めた様々な遊びの中から自分のしたい遊び，それに合う自然物を選ぶ。	自分の工夫した遊びのよさやルールをまとめる。	自分の工夫した遊びやそのルールを友だちに分かりやすく紹介する。
3 学期	ふゆ	いっせん(いっせいはる)とあそぼう	2	学校の冬を探そう。	校庭の様子の中で冬独特の様子を見つけることが出来る。	自分の見つけた冬のなかで特にみんなに知らせたい冬を選ぶ。	見つけたよカードに絵や文で自分の見つけた冬を書く。	
			2	冬の公園はどんなになっているかな。	校区の公園で冬独特の様子や物を見つけることが出来る。			
			2	公園で見つけた冬を表そう。		自分の見つけた冬のなかで特にみんなに知らせたい冬を選ぶ。	見つけたよカードに絵や文で自分の見つけた冬を書く。	みんなに知らせたい自分の見つけた冬を発表する。

2 年生（2004 年度 1・2 学期，2003 年度 3 学期の実践から抜粋）

		時	指導計画	情報収集能力	情報選択能力	情報生成能力	情報発信能力
1 学期	ぼっけん はっけん 町たんけん	1	自分が知っている町の秘密を友だちに紹介し合おう。		学校のまわりにはいろいろな施設や店があることに気づく。		
		1	町探検の計画を立てよう。				
		4	学校のまわりを歩いてみよう。	町にある施設や店，人々の様子を知る。			
		2	見つけたことを紹介しよう。			見つけたことをカードに絵や文で表す。	
		4	くわしたんけんする準備をしよう。		調べたいことや聞きたいことなどをグループでまとめる。		
		2	たんけんに行こう。	自分たちが立てた探検のめあてを達成させる。			
		5	町たんけんのことを紹介するものを作ろう。		調べたことの中から知らせたいことを選ぶ。	みんなにわかりやすく文で表す。	
		1	たんけんしたことを発表し合おう。				コンピュータを使ってまとめたことを発表する。
		1	夏休みの思い出を発表し合おう。				夏の町の様子や楽しかった思い出を発表する。
		1	友だちの発表を聞きながら町たんけんできてみたいことを見つけよう。		友だちの発表を聞いて自分が町たんけんできてみたいことを選ぶ。		
2 学期	いっしょに遊ぼう出前フェスティバル	2	町の人ともっとなかよくなろう。				
		4	町たんけんに行こう。	交流相手と触れあいながら自分たちができることを探す。			
		2	もっと交流しよう。		探してきたことの中から相手にふさわしい活動を選ぶ。		
		1	交流してきたことをまとめてみよう。			交流の様子をカードにまとめる。	友だちに分かりやすく発表する。
		6	フェスティバルの計画を立て，準備をしよう。	自分たちのフェスティバルを企画・準備するために今までに体験したり見聞きたりした行事などを参考にする。	交流相手にあった活動方法を選ぶ。	交流相手にしてあげたいことを相手に分かりやすいものにする。	
		3	おうちの人や先生方に教えてもらおう。	自分たちが考えた活動についておうちの人や先生にアドバイスをしてもらおう。			自分たちが考えた活動をおうちの人や先生相手にやってみる。
		2	いっしょにあそぼう出前フェスティバル。				自分たちが考えた活動を交流相手と楽しむ。
		3	フェスティバルを振り返ろう。				友だちに分かりやすく発表する。
		2	小さいころのことを聞いたり，思い出してみよう。	お家の人に自分の小さいころのことを聞く。			
		1	小さかったころのことを調べる方法を見つけよう。				
3 学期	あしたのチャン	3	家の人に聞いたりして小さいころのことを調べよう。	家で自分の小さいころのことがわかる写真などを探して調べる。			
		2	できるようになったことを話し合おう。				
		4	聞いたり調べたりしたことを絵や文でまとめよう。			自分の小さいころのことを絵や文でまとめる。	
		3	発表会の準備をしよう。		友だちに発表したいことを選ぶ。	友だちにわかりやすく発表するために発表の工夫をする。	
		2	発表会をしよう。				聞いている人にわかるように工夫して発表する。
		2	発表会をしよう。				

3 年生（2004 年度 1 学期，2003 年度 2・3 学期の実践から抜粋）

	時	指導計画	情報収集能力	情報選択能力	情報生成能力	情報発信能力
1 学期	見つめようとしたもののまち	高知市のようす	1 高知市にはどのようなところがあるのだろう。	高知市全体の地図を見て、自分たちの学校の位置や全体の様子を概観する。		
			1 高知市の探検の計画を立てよう。	高知市中心部の探検のコースを地図に書き入れる。	グループで調べる内容、インタビュー項目、分担などを話し合い決める。	
			6 高知市中心部の探検をしよう。	高知市中心部を探索し、気がついたことを見学メモやデジタルカメラに記録したり、知りたいことをインタビューしたりする。	探検で各自調べてきたことを、場所ごとにワークシートに絵や文章でまとめる。	
			2 高知市中心部のようすをまとめよう。		見学してきたことの中から、自分のまとめたいことを決める。撮影してきたデジタルカメラの映像から、必要なものを選ぶ。	グループで話し合い、自分たちの伝えたいことを、模造紙に絵や写真、文章でまとめる。
			1 高知市中心部の発表会をしよう。	他のグループの発表を聞き、高知城周辺には、公共施設や商店街など人が多く集まる場所であることに気づく。		各グループでまとめたものを、分かりやすく伝える。
			1 高知市全体の様子を調べよう。	自分が興味を持った地域の様子を、学校のホームページや副読本などで調べる。	高知市全体の地図から、自分の調べてみたい地域を決める。	自分の興味を持った地域の様子を、カードにまとめる。
			1 高知市周辺の様子をまとめよう。		友だちの発表から、高知市周辺のとくちょうをつかむ。	各自が調べたことを高知市全体の地図に表す。自分が調べた地域の様子を、発表する。
			3 高知市のとくちょうをまとめよう。	各自が調べたことを表した地図から、高知市は場所によって違いがあることに気づく。		高知市のとくちょうを、自分の言葉でまとめる。
2 学期	見直そうとしたもののくらし	店を調べに行こう	2 スーパーマーケットの見学の計画を立てよう。		自分の経験やこれまでの学習の中から、見学で調べてきたいことを見学メモへ書く。	
			3 スーパーマーケットの見学に行こう。	スーパーマーケットの見学で自分が調べたいことや聞きたいことを直接見たり聞いたりする。	スーパーマーケットの見学や店長さんのお話の中から、自分の調べたいことの情報を聞き取る。	各自、見学で調べてきたことを、項目ごとに絵や文章でまとめる。
			2 お店の工夫について調べよう。	スーパーマーケットの工夫の一つとして、チラシを集める。	チラシに書かれていることや写真などから、お店の工夫や働いている人の工夫を見つける。	各自が見つけたチラシの工夫は、付箋紙を使ってまとめる。
			2 お店調べのまとめをしよう。	これまでに学習したことの見学メモやノート、教科書を使ってスーパーマーケットの様子や特徴を知る。	各グループで自分たちがまとめたい情報をまとめたものの中から選ぶ。	各グループで、スーパーマーケットになぜたくさんの人が買い物に来るのか模造紙に絵や写真、文章でまとめる。
3 学期	わたしたちの高知市	市の人たちのくらしのつりかわり	2 まちの昔と今	昔のはりまや橋の様子について家の人に聞いてくる。	今と昔のはりまや橋の写真を見て、違いや共通点を探す。	今と昔のはりまや橋の様子について気づいたことを言葉や絵に表し、発表する。
			1 古い道具のあるところ	実際に古い道具を見て、調べる。		
			1 せんたく板を使って			
			2 ぐらしのちがい	おじいさんやおばあさん、お父さんお母さんに話を聞いて使われていた道具について調べる。	調べてきた道具の中から、今のくらしと違うものを選ぶ。	自分で書いた画用紙を元に、便利な面や感想を発表しあう。
			1 祭りとお祭りのちがい	伝統的なお祭りについて、インターネットや本などを使って調べる。	たくさん調べた中から、もっと詳しく調べてみたいお祭りを選ぶ。	選んだお祭りについて、実際に話を聞きに行ったり、写真を撮ったりしてワークシートにまとめる。

4 年生（2004 年度 1 学期，2003 年度 2・3 学期の実践から抜粋）

	時	指導計画	情報収集能力	情報選択能力	情報生成能力	情報発信能力
1 学期	健康な暮らしとまちづくり	市民の健康を守る活動	2 学校から出るごみは、どのように始末されているのだろう。	バッカー車がゴミを集める様子を見学し、気づいたことをまとめる。		
			3 家から出されたごみはどこへ運ばれるのだろう。	クリーンセンターでゴミについて質問をしたり、収集活動の問題点などの話を聞く。	自分が質問して得た情報のなかから、とっておきの情報を選び、ノート 1 ページでまとめる。	
			1 高知市のごみの量は 10 年前と比べて増えているのはなぜだろう。		高知市のごみの量の変化から、人々の暮らしがどのように変わっていたかを読みとる。	
			9 清掃工場ではどのようにごみを処理しているのだろう。	高知市清掃工場、三里最終処分場、プラスチック減容工場を見学し、高知市のごみ処理について調べる。	清掃工場などの様子を記したメモから発表原稿を作る。	他の友だちに、自分が高知市のごみ処理を見て、感じたことを伝える。
			3 ごみはどのように再利用され、生活に生かされているのだろう。	高知市のごみ処理についてまとめた後、自分が選んだ別の地域のごみ処理・リサイクルについて調べ、高知市のと比較しする。	自分が得たパンフレットなどのなかから高知市のごみ処理・リサイクルと比較する項目を選び、まとめる。	
			2 ごみを減らすにはどんな工夫をすればいいだろう。	市やボランティアの人々が行っているごみ減らしの活動を調べる。	自分たちが続けて取り組むことができるごみ減らしの実践を考える。	ごみをなるべく作らない暮らしをするためにできることを、どのような方法で地域に発信しようか考え、行動する。
2 学期	わたしたちの県	県の地図を広げて	1 高知県の特産品を調べよう。	高知県の特産品を調べ、資料を集める。		調べてきた特産品を友達に紹介する。
			1 地図を使いこなそう。			
			1 地形図を作ってみよう。			
			2 高知県のじまんマップを作ろう。		集めた特産品の中から自慢になるものを選ぶ。	白地図に特産品の生産地に書き込み、特産品のじまんマップを作る。
			1 特産品がいろいろあるのはどうしてだろう。	自分が考えた理由を実証するための資料を探す。	自分が考えた理由を実証するために有効な資料を選ぶ。	自分たちが作った特産品のじまんマップと地域の一押しの特産品を紹介する。
			1 じまんマップ（自然編）を作ろう。	高知県の地形の様子について調べる。		特産品と関連させてその土地の地形の様子をかきこむ。
			2 じまんの特産品を送ろう。	高知県の交通網について調べる。	自分が送りたい特産品を運ぶための交通手段とルートを考える。	白地図に高知県の交通網をかきこむ。
3 学期	わたしたちの高知県	伊野町	2 伊野町ってどんなところ	伊野町について調べる。		
			4 紙の博物館を見学しよう	和紙の歴史や作り方について調べる。		見学して分かったことをまとめる。
			1 伊野町の人々の思い			
			1 高知県の伝統工芸	高知県の他の伝統工芸について調べる。		選んだ伝統芸について表にまとめる。
		馬路村	1 馬路村はどんなところ	馬路村に関連する資料を集める。		
			1 馬路村に住む人たちのくらし		馬路村の生活のようすが分かる資料を見つけ、説明ができる。	
			1 元気のある村になるまで			
			1 山地のくらしについて			山地のくらしについて、高知市と比べ、まとめる。
		高知県を紹介しよう	2 高知県のじまんのものについて調べよう。	紹介したいものについての資料を集める。		
			4 高知県のじまを紹介しよう。		集めた情報の中から知らせたい事柄を選ぶ。	自分が選んだ自慢のものについて紹介するホームページを作る。

5年生（2004年度1学期，2003年度2・3学期の実践から抜粋）

			時	指導計画	情報収集能力	情報選択能力	情報生成能力	情報発信能力
1学期	食料生産を支える人々	水産業のさかなな地域をたずねて	3	水産業について調べる計画を立てよう。 ・魚のふるさとはどこ？ ・魚や水産業のひみつを見つけよう。 ・調べたことをまとめよう。	・本や資料集を使ってお魚マップを作る。 ・調べたい事柄についてインターネット，教科書，資料集，図書等から資料を集める。	・調べたことの中で1番知らせたいことを決め，必要な資料を選ぶ。	・選んだ資料を使って聞き手を意識しながらタブレットPCにまとめる。 ・まとめたことを保存する。	友だちにタブレットPCにまとめたことをわかりやすく発表する。
			1	水産業のさかなな地域の様子を調べよう。	課題解決に必要な資料を教科書，資料集から集める。	前時に集めた資料から課題解決に関わる資料を選ぶ。		
			1	どのようにしてさんまは食卓へ届けられたのだろう。			届けられるまでの様子を4コマまんがにまとめる。	
			1	育てる漁業の人たちの仕事ってどんなのかな。				
			1	海の資源を守るための工夫や努力を調べよう。				
			2	これからの水産業について考えよう。			水産業について学習したことを新聞にまとめ，これからの水産業について考える。	自分の水産業新聞を友だちに紹介し，伝える。
2学期	食料生産を支える人々	これからの食料生産	1	食べ物のふるさと調べをしよう。		自分たちの生活体験をもとに調べたいことを考える。		
			1	スーパーマーケットへ行こう。	食材の産地を調べて必要な情報を集める。			
			1	調べたことをまとめよう。			調べたことを地図や表にまとめる。	
			1	どうして輸入食品が増えたのだろう。	身の回りの食品から輸入品を集める。			
			1	日本の主な食べ物の自給率を調べてみよう。	家で輸入食品を利用しているかどうか情報を収集する。	資料やグラフから食料輸入について必要な情報を選択する。		
			2	食料輸入に対する自分の考えを伝えよう。	インターネット，本，資料等から食料輸入に関する情報を集める。	収集した資料から必要な情報を選択する（安全，環境，健康，外国）。		自分が集めた情報をもとに考えを友だちに伝え合う。
			2	自分たちができることは何だろう。		自分たちの生活に生かせることは何かを考え見つける。	自分の考えをポスターや文にまとめる。	自分の考えやポスターを友だちに伝える。
3学期	すみよいくらしと環境 くらし 自然を生かしたくらし	①あたたかい沖縄の人たちのくらし	1	沖縄県の家づくりの工夫について調べよう。	沖縄のくらしについてパソコンや本で調べる。		調べたことをノートにまとめる。	まとめたことを発表し，友だちに伝え合う。
			1	沖縄県の産業について調べよう。	自分たちの身の回りから沖縄産のものを探す。	沖縄の産業や観光，特産品などから課題を見つける。		調べたことをみんなに伝え合う。
			1	沖縄県の人々のなやみや願いについて考えよう。	沖縄の歴史について関係のある本や資料を読みあう。		学習したことをノートにまとめる。	
		②寒い宗谷地方の人たちのくらし	1	宗谷地方の人々のくらしの工夫と気候の関係について考えよう。	寒い地方の人々のくらしの工夫についてパソコンや本で調べる。		寒い地方の人々のくらしの工夫についてノートにまとめる。	
			1	北国の気候条件を生かした産業について調べてみよう。	ビデオで宗谷地方の人たちの願いや北方領土に住む人たちのくらしを知る。	気候条件を生かしているものを見つける。		学習したことを自分たちのくらしと比較しながら発表する。
			1	国境に近い宗谷地方の人たちの願いを知ろう。	日本の位置やまわりの国々について地図帳やパソコンを使って調べる。		北国の人々の願いをまとめる。	北国の人たちの願いを知り，今後のあり方について発表し合う。

6 年生（2004 年度 1 学期，2003 年度 2・3 学期の実践から抜粋）

	時	指導計画	情報収集能力	情報選択能力	情報生成能力	情報発信能力
1 学期		大昔の人々の暮らし				
	1	米作りが始まったころ人々はどのような暮らしをしていたのだろう。	登呂遺跡の様子をインターネット、本、資料集等から資料を集める。	狩りや漁、採集の生活、稲作の方法を調べる。	米づくりによって、人々の暮らしにどのような変化が表れたのかを考える。	調べたことや考えを発表し、伝え合う（新聞にまとめる）。
	1	米作りが始まってむらの様子はどう変わったのだろう。	吉野ヶ里遺跡や邪馬台国についてインターネット、本、資料集等から資料を集める。	大規模な集団であるむらからくにができていく過程を調べる。	それにもなう変化について話し合う。	
	1	古墳のつくり方や広がりから、どんなことがわかるだろう。	大山古墳の規模やつくり方について、インターネットや、本、資料集等から資料を集める。	だれが、どのような目的で古墳をつくったのかを知る。	朝廷の広がりや豪族の関係を考える。	調べたことや考えを発表し、伝え合う（新聞にまとめる）。
2 学期		戦争から平和への歩みを見直そう				
	1	戦争中の人々の暮らしについて調べてみよう。そして、現在の平和で豊かな社会がどうやって築かれてきたか考えよう。	「太平洋戦争」という言葉をキーワードに戦争のゆくえや被害、人々のくらしなどについて調べるための資料を集める。		学習後に「歴史新聞」を作り学習のまとめにすることを考える。	
	1	日本の行動によって戦争はどのようになっていったのだろう。また、日本の国民や中国などアジアの人々はようになっていったのだろう。		集めた資料や教科書や資料集等から日本がどのようにして戦争への道を進んでいったのか、国民やアジアの人々の暮らしや被害はどのようなものだったのか、課題解決のために調べる。	予想したり、疑問に思ったことからくわしく調べてみたいことをまとめる。	
	1	中国に勢力を広げる足がかりをつけた日本は、このあとどのような行動をとっていったのだろう。			今後の学習の進め方やまとめ方などの見通しを立てる。	
	1	アジア、太平洋各地に広がった戦争で人々はどのように戦ったのだろう。			自分の考えや疑問を整理する。	自分の考えや疑問を整理し、友だちに伝える。
	1	戦争中の人々のくらしはどのようなものだったのだろう。				
	1	戦争を続けた日本はどうなっていったのだろう。				
	2	学習してわかったことや考えたことをもとに歴史新聞を作り発表しよう。	参考となる写真や資料等を聞き取り調査やパソコン、図書室などを使って集める。	集めた資料をテーマにまとめて整理する。	写真や説明文等を効果的に使い、自分の考えも記入する。	歴史新聞を作り、友だちに紹介し交流し合う。
3 学期		くらしと政治を調べてみよう				
	1	ニュースから政治のはたらきを考えよう。	新聞やテレビ、インターネットを活用して興味を持ったニュースを集める。		自分の考え方も加えニュース原稿をまとめる。	興味のあるニュースに自分の考えも加え、発表する。
	4	日本国憲法における「国民主権」の原則の意味について考える。	校区長を選ぶ模擬投票を行うことを知り、町づくりに必要なことを調べる。	町の問題点を搜したり家族から要望を聞いたり一番必要だと思うことを選ぶ。	集めた情報をもとに「こんな町にしたい」という演説文を作る。	模擬投票を体験することで主権が尊重されていることを実感し、それについて感想を書き発表し合う。
	1	日本国憲法の「基本的人権の尊重」の原則の意味について考える。	教科書や資料集をもとに「基本的人権」について調べる。			
	2	平和への願いは日本国憲法にどのように表されているか調べ、考える。	ヒロシマについてのホームページをインターネットで調べる。			
	3	国会、内閣、裁判所の働きについて調べ、まとめる。	教科書や資料集をもとにそれぞれの働きについて調べる。	三権の仕組みや働きについて調べたことを整理し、パンフレット作りの準備をする。	見る人を意識しながら仕組みや働きがよくわかるように焦点を絞る、パンフレットを作る。	パンフレットを友だちに紹介する。

テレビ会議

本校においては、毎年何らかの形で、他校とのテレビ会議による交流・学習を行ってきた。一昨年の研究初年度は、NHKの川の学習にて、昨年度は、5年生の国語科の「方言と共通語」において、学校インターネット提供のCu-SeeMe Webを利用したテレビ会議システムを活用し、岐阜県羽島郡笠松町立松枝小学校との方言交流を行った。お互いの方言の良さを気づいたり、相手を意識した表現活動ができたこと、共通語の意味について考えたり、次への交流のステップアップも考える児童もいたりで、互いの学校の児童が有意義な時間を共有することができた。

今年度は、4年生が社会科学習において、鳴門教育大学（大学生）とのテレビ会議による交流・学習を計画している。特に、今回は、単なる画面上を通した音声と画像のやり取りだけでなく、ファイルのやり取り、アプリケーションの共有や、リアルタイムな共同作業を考えており、これまでとは違った形での一歩進んだテレビ会議活用の学習を考えている。



タブレットPCの活用

今年度、タブレットPCを7台貸与していただける機会に恵まれた（タブレットPCとは、普通のノート型パソコンのキーボードの部分がなく、入力にはキーボードではなくペン型の入力機器を使う。液晶画面に直接触れることで入力ができる。外付けのキーボード、マウスも装着可能。）

ことで、5年生を中心に、このタブレットPCを活用して学習を進めている。

用途としては、今のところミニホワイトボード的な使い方をしており、班での話し合い活動の媒体として活用している。その特徴としては、PC上に直接記録できることで、前の話し合い内容の振り返り、印刷や拡大表示が簡単にできること、そして、ワイヤレスでのインターネット接続可能であることなどが挙げられる。基本的に、キーボードやマウスを使用しないことから、誰にでもすぐに受け入れられる素地もあり、児童がタブレットPCに慣れるのに時間はかからなかった。児童からの要求にいろいろな形で応えられる新しい情報機器として、今後の活用の充実を図っていきたい。



一般公開・校内ホームページの活用

本校には、誰でもがアクセスできるホームページと校内LAN内限定のホームページの2つを開設している。一般公開用ホームページは、学校紹介、行事予定、校歌等を掲載している。また、校内用ホームページには、児童が学習利用できるよう、各種サイトのリンクを載せたり、学習成果等のコンテンツを載せたりしている。校内ホームページの

利点は、何よりも年度ごとに蓄積していくコンテンツを児童が何度も繰り返し再利用できることである。

グループウェアソフトの活用

校内の校務スリム化，効率化，資産共有化，そして，子どもたちの情報活用能力育成を図るためにグループウェアソフト（富士通「MyWeb standard 版」）が導入されて3年



目。本グループウェアソフトの導入によって、様々な成果があがってきた。

大きく、次の3点が挙げられる。

1. 時間の有効的な活用に寄与
2. ペーパーレスにより省資源に寄与
3. 授業実践に寄与

まずは、校務の効率化である。これまで、朝の打ち合わせに時間を要していたが、導入によって時間短縮と確実な伝達ができるようになった。担当が、気のついた時に、リアルタイムに書き込みができるので、効率よく、また、文字として残り、資料の添付等もできるので、職員間の連絡が早く確実にできるようになった。

また、担当が文書作成をしてきたものを、印刷し、場合によっては綴じなければいけなかったものが、発言に文書ファイルを添付することで、資料の印刷、綴じの必要がなくなり、時間短縮、紙の利用も減ってきた。また、提案文書等をサーバーに登録することで、資料の一元化、共有化が少しずつ行われ始めた。この取り組みを続けていくことで、更なる校務のスリム化，効率化を図り，子どもに接する時間や教材研究の時間を確保できるようにしたいと思う。

そして、授業の中でも MyWeb（児童バージョン）の会議室を活用。動画や静止画，文字によるプレゼンテーションが行え，視聴者から文字で感想が届けられるようにして，他の児童からの評価をもらえるようにすることで，より良いものを創造することへとつながった。

また，昨年から頻繁に発生した Windows の脆弱性を狙ったウイルスに対しても，この MyWeb が活躍した。Windows の脆弱性が発表されると，それを修正するソフトウェアを MyWeb 上に保存し，各個人が掲示板から，マウスのワンクリックで操作できるようにして，素早いウイルス対策を行うことができた。

この MyWeb，活用をしていく中でいろいろな改善点も見つかっている。それらをもとに，誰もがさらに使いやすいものとなるようバージョンアップもはかっていると考えている。



■ 学年・学級経営の充実

主体的に学ぶ子どもの育成には、授業改善・教師の教材研究が重要であることは言うまでもないが、学校生活の中で子ども同士のよりよい関わり合いも見逃すことができない。授業の中で友だちや教師の支援や共感、よりよい学習活動の大きな原動力となるはずである。

そのような観点から、本校では以前より学級・学年内の支持的風土を大切にしてきた。支持的風土を大切にしていくためには、子どもたち一人ひとりの個性を認め、「個」を生かすことを大切にしていける必要がある。一人ひとりの違いを認め、容認し合い、それとともに一人ひとりの「個」を自立させていくことが重要である。

また、学年・学級経営を行う上では学年間の系統性、及び各学年・学級間の連携が大切である。そこで、年度当初に学級経営案を作成し、夏季休業中に、全校で学級経営交流会を開き、二学期以降の学年・学級経営に生かすようにしている。

さらに昨年度に引き続き、「Q-U」に関する校内研修を実施している。昨年度は自分たちの学級の状況を客観的に見る方法を学んだ。今年度は、3年生以上の全学級において「Q-U」を実施し、その結果をもとにして学級経営のあり方について具体的に考えるという校内研修を実施した。このように、自分の学級を客観的に診断し、その結果をもとに個々への支援や手だてを改めて考えたり、自分自身の学級経営を見直したりして、全ての子どもが安心して楽しく学校生活を送るための、より意欲的な学級経営をめざしてみたい。

○学級経営案様式

学年目標	[学級作りの重点] ・方針 ・具体的重点目標
学級目標	
子どもの実態	年間指導計画一覧表